

Cisco UmbrellaとmacOS Big Surの互換性について

内容

[はじめに](#)

[概要](#)

[解決方法](#)

はじめに

このドキュメントでは、Cisco UmbrellaとmasOS Big Surの互換性について説明します。

概要

シスコは2023年にCisco AnyConnectのサポート終了を、2024年にUmbrellaローミングクライアントを発表しました。Cisco Umbrellaをご利用のお客様の多くは、すでにCisco Secure Clientへの移行のメリットを享受しています。より良いローミング環境を得るために、できるだけ早く移行を開始することをお勧めします。ナレッジベース記事「How do I install Cisco Secure Client with the Umbrella Module?」の詳細を参照してください。

macOS Big Surを使用している場合、Cisco Umbrellaとの互換性に関する問題が発生する可能性があります。

- スタンドアロンのUmbrella Roaming Clientは、既存のCPUと新しいAppleシリコンの両方で、すでにBig Surをサポートしています。M1はバージョン2.3.4からネイティブでサポートされています。
- AnyConnect用のUmbrella Roamingモジュールでは、AnyConnect 4.9.02028以降へのアップグレードが必要です。AnyConnectモジュールを最新バージョンにアップデートする方法については、『[Umbrella Roamingセキュリティクライアント管理者ガイド](#)』を参照してください。バージョン4.10 MR2は、M1シリコンをネイティブでサポートします。

解決方法

- AnyConnect 4.9.02028は、macOS 11(Big Sur)beta 5 (またはpublic beta 2)以降のバージョンでも機能するmacOS専用リリースです。MacOS 11(Big Sur)での新規インストールでは、以前のバージョンのAnyConnectで使用されていたカーネル拡張とは対照的に、AnyConnectでシステム拡張が使用されます。
- 以前のバージョンのAnyConnectは、macOS 11でも動作しますが、MDMベースの承認が必要なAnyConnectカーネル拡張は、macOS 11から開始されるため、MDM管理対象デバイスでだけ動作します。
- Big Surの互換性に関する問題は、umbrella-support@cisco.comに送信できます。

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。